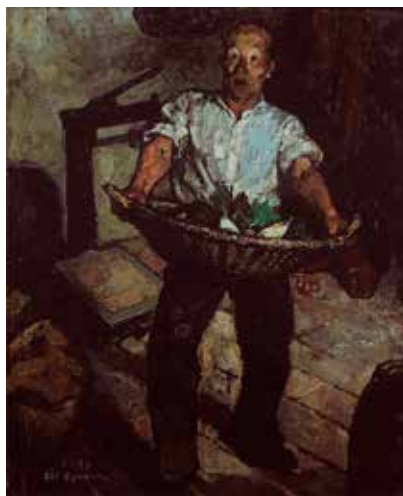


「感動の場一点」でどうだろう、点がたくさん集まり、まとまる、それが美術館ということかな (小川原 脩)

「感動の場一点」は、1998年の美術館着工を機に始まった、倶知安町広報誌で小川原脩作品を紹介するコラムのタイトルで、小川原自身が名付けたものです。本人から美術館の学芸員へと執筆者が変わり、現在は連載を開始して25年、掲載回数は300回を越えました。

時流に翻弄されつつも、「豊かな自閉」と呼称し地方から社会を注視した画家・小川原脩。飽くなき探究心を貫いた創作姿勢を映す作品の数々を、「感動の場一点」で綴られた紹介文とともにご覧いただけます。



納屋 1933年



植物園 1937年



婦人像 1942年



馬 1963年



ある晴れた日に 1971年



チベット讃歌 1982年



九官鳥の風景 1994年

●同時開催.....

小川原脩展「小川原脩と麓彩会」

開催中～2024年2月12日(月・祝)

〈おしゃべり美術館2024〉対話鑑賞のススメ

2024年2月17日(土)～4月14日(日)

●会期中のイベント.....詳しくはチラシ・HPをご覧ください。

一時間のクラシック

朗読劇『イノック・アーデン』

～語り手とピアノのための

2024年1月27日(土) 14:00～15:00

出演：則竹正人さん(朗読・バリトン)、大家純子さん(ピアノ)

入場無料・予約不要・当日先着50席

アンサンブル・クレセント

「弦楽四重奏 名曲コンサート」

2024年2月18日(日) 14:00～15:00

出演／アンサンブル・クレセント

森本千絵さん(ヴァイオリン)、森由紀子さん(ヴァイオリン)、

猿渡美穂子さん(ヴィオラ)、山田慶一さん(チェロ)

入場無料・予約不要・当日先着50席



小川原脩

1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。旧制中学(現・倶知安高校)で油彩を始める。東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科に入学。在学中に「納屋」(1933年)が帝展に入選。卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。その後、軍の命令により戦争記録画を制作。

戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会(全道展)」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出磨らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞受賞。この年、小川原脩画集(共同文化社)を出版。

戦後、倶知安町に定住してから半世紀以上、新たな造形の可能性を求め続けたが、とりわけ70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドでの体験を契機として創作の新境地を拓いている。



小川原脩記念美術館

Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1(0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>